



月刊 千葉動力車

基本方針から「安全」が消えた!

— 千葉支社経営計画 —

四月二十五日、「平成九年度千葉支社経営計画」の説明が行われた。例年のように、経営計画のページ目には、「経営計画の基本方針」という表題のもとに、一年間の経営方針の基本的な考え方が書かれている。

ところが驚くべきことに、昨年来、この「基本方針」の部分から「安全」という問題が完全に消えてしまっているのだ。

鉄道事業にとって安全は命であるはずだ。国鉄時代、「綱領」の冒頭でうたわれていたとおり「安全は輸送業務の最大の使命」ではなかったのか。もちろん、

お題目としてだけ掲げられていればいいものではない。しかし千葉支社では、お題目どころか一年間の経営計画の「基本方針」の部分から、安全という言葉すら消し去ってしまったのだ。

信じられない!

これは重大なことだ。そして恐るべきことである。何よりも千葉支社では、管理機構のトップから末端まで、安全という問題を真剣に考えようともしないばかりか、「基本方針」を考へるときに発想すらしないような状態が体質化してしまっているということだ。

「経営計画」という性格上、できあがるまでには、経営の中核をはじめ、全主管課が関わって何度となく検討や訂正が行な

われているはずである。その全過程のなかで、「基本方針」の部分で安全という問題をきちんと認識し、位置づけなければならぬと発想する者が、トップから末端まで一人もいなかったということだ。支社のなかには、安全対策部という、安全問題を専門に扱う部署もある。その対策室すら、「基本方針」で安全の確保について、「最大の使命」として位置づけようということを言わなかったということだ。全く信じられないことである。

歪みきった組織

では、一体何が「基本方針」でうたわれているのかといえば、「厳しい経営環境」「コスト意識の醸成と効率的な業務運営」

「支社の経営構造と風土の抜本的見直し」「お客さま第一主義の実践」「増収増益から現収増益への意識の転換」……これだけである。要するに安全のことなど、一切意識のなかから放りだして、効率化につき進むというのだ。一体どんな「風土」

ができあがるというのか! こうした姿勢は、経営計画の具体的内容にも当然影響をおよぼし、運転士に対し、新設研修として、接客態度・言葉遣いなどの「サービス基本研修」を行

うなどという、開いた口が塞がらないような発想となっており、

結局、JR総連・革マルと結託し、安全に関する理念など何ひとつもつことなく、組合潰しと効率化だけを遮二無二につき

進んできた十数年の結果は、ここまで会社組織を歪めてしまったということだ。もはや黙っているわけにはいかない。

憲法施行五〇年を迎え、今また憲法を改悪しようとする動きが出てきている。二年前に「読売改憲私案」を出した読売新聞は新たな改憲の宣伝を行ない、さらに国会議員の六割が改憲に賛成しているという記事を掲載するなど、戦争を放棄した憲法を改悪しようとする煽りたてている。また、一方では、東京大学教授・藤岡信勝らは、アジア太平洋戦争で日本軍が行なった南京大虐殺や日本軍軍隊慰安婦の歴史的事実を否定するとともに、新たな侵略自衛隊の海外派兵をもつと自由にするために憲法の改憲を主張している。

こうした改憲論に対する闘いの一環として五月二日、杉並・セシオン杉並において「憲法施行五〇年を考える五・二講演集会」が開催され、平和遺族会全国連絡会事務局長の西川重則さんから「沖縄・教科書・天皇―憲法のゆるえ」について、また「朝鮮有事と九条」について弁護士鈴木達夫さんから講演が行なわれ、現在の朝鮮・中国・アジアをめぐる一触即発の状況を痛感するとともに、平和憲法を改悪しようとする攻撃に対して断固とした態度で闘いぬく必要があることが訴えられた。

憲法50年集会開催!

